

募集・選考にあたってのプログラム総括の考え方

プログラム総括：土居 範久 慶応義塾大学名誉教授

H24年度募集のポイント

1. ポートフォリオの拡充（サービスに関する重要な問題）

これまでに採択がなかった分野の提案を歓迎する。特に、ビジネス、人、情報、技術等の多様な知見を融合し、サービスに関する重要な問題の解決を目指す提案を期待する。その他、人・地域活動・規制を含んだ社会システムのデザインと評価、サービスと基盤技術の統合等、公共サービスを対象とした提案を期待する。

2. 学問融合と現場との共創による知の創出と社会的貢献

サービス科学の研究基盤構築や問題解決を通じた社会的貢献が明らかな提案を歓迎する。システム開発が主目的であると判断される提案は、本プログラムの対象とはならない。プロジェクトの研究開発体制については、地域やコミュニティの多様な関与者が参画するように考慮されるとともに、人文・社会科学系、理工系研究者の双方の参画を求める。

3. 多様性の強化

概念・理論構築を主に行う研究から技術開発・実証を含む研究まで、研究内容・研究手法の多様化および適切な予算規模の提案を期待する。また、地域からの応募、及び若手・女性代表者の応募を歓迎する。

平成22年度から開始された「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」は、「サービス科学」の研究基盤を構築すること、研究成果を様々なサービスに活用し社会貢献をすること、さらに「サービス科学」の研究者・実践者によるコミュニティの形成に貢献することを目指しています。「サービス科学」は、既存のサービスに科学的アプローチを導入して効率化・最適化を図るだけでなく、理工学分野とマネジメント・マーケティング・文化人類学等の人文・社会科学分野が融合し、サービスの現場との協業により、サービスに関する科学的な概念・理論・技術・方法論の構築を目指すものです。

平成23年度の公募では、サービスの理論構築を強化するため、B型研究（横断型研究）において人文・社会科学に軸足を置くアプローチも推奨するなど、幅広い分野の応募を呼びかけました。これに対し、全国から105件の応募がありました。幅広い分野から興味深い提案がありましたが、サービス科学としての研究課題の記述が十分ではないもの、研究計画がシステム開発に留まっているもの、関与者からのコミットメントが不明確なもの、先行研究、先進事例についての調査が不十分であるもの、等も見受けられました。採択案件は、農業水利や多言語環境における諸問題の解決を目指す提案、及び日本型クリエイティブサービス、医療、利他性に関する基礎理論についての研究でした。

本年度は、サービス科学の趣旨に真正面から取り組む提案、すなわち、ビジネス、人、情報、技術等の多様な知見を融合し、サービスに関する重要な問題の解決を目指す提案を改めて期待します。また、本プログラムのミッションであるサービス科学の研究基盤構築および問題解決を通じた社会的貢献が明らかな提案を歓迎します。

システム開発が主目的であると判断される提案は、本プログラムの対象とはならないことを強調いたします。なお、このことは、本プログラムにおいて、一切のシステム開発を排除するという趣旨ではありません。

研究開発において必要と判断されるシステム開発は、本プログラムの対象となりえます（例：既存のシステムが存在しない分野において新規プロトタイプを構築する、既存システムを改変する、などを通じてサービスの知見を創出する提案）。

今年度も昨年度に引き続き、A 型（問題解決型）、B 型（横断型）の 2 つのアプローチを設定しています。また、B 型の下に B1 型（文理融合型）と B2 型（人文・社会科学型）の 2 タイプを設定しています。3 者はそれぞれ異なる目的やアプローチを有しています。B 型研究については、特定の専門分野を起点に、どのような新たな知見を創出するかが明確である提案を期待しています。さらに、創出された知識は、複数の産業分野にインパクトを与えるものであることが期待されます。科学研究費補助金の基盤研究（A・B・C）のように応募総額によって枠を設定しているものではありませんので、応募に当たっては十分な留意をお願いいたします。

最後に、本プログラムに採択された場合、本プログラムのアドバイザリボードのメンバーは、研究開発の進捗状況や成果を常時把握し、研究推進者と一体となって活動を行います。この点も科学研究費補助金による助成とは異なりますので、ご理解の上応募いただくようお願いいたします。

以上を踏まえ、昨年度に引き続き、地域、企業、若手、女性など、多様な方々からの積極的な提案をお待ちしています。